

令和3年度 まちづくり月間関連国土交通大臣表彰

1. 第10回 まちづくり法人国土交通大臣表彰
2. 第3回 コンパクトなまちづくり大賞
3. 第3回 先進的まちづくり大賞
4. 第16回 住まいのまちなみコンクール
5. 第23回 まちづくり・都市デザイン競技

<問い合わせ先>

【まちづくり法人国土交通大臣表彰】

国土交通省 都市局 まちづくり推進課 TEL 03-5253-8407
<http://www.mlit.go.jp/>

【コンパクトなまちづくり大賞】

コンパクトなまちづくり推進協議会
事務局 (一財) 都市みらい推進機構 TEL 03-5261-5625 <http://www.compact-net.org/>

【先進的まちづくり大賞】

コンパクトなまちづくり推進協議会
事務局 (一財) 都市みらい推進機構 TEL 03-5261-5625 <http://www.compact-net.org/>

【住まいのまちなみコンクール】

(一財) 住宅生産振興財団内 住まいのまちなみコンクール事務局 TEL 03-5733-6733
<https://www.machinami.or.jp>

【まちづくり・都市デザイン競技】

(公財) 都市づくりパブリックデザインセンター TEL 03-6912-0799
<https://www.udc.or.jp/>

第10回まちづくり法人国土交通大臣表彰

「まちづくり法人表彰」は、地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるまちづくり法人が中心となった先進的な取組を奨励・普及するため、地方公共団体や関係団体の協力の下、平成24年度に創設された国土交通大臣表彰制度です。

主催：国土交通省

共催：(公財) 区画整理促進機構、(一財) 国土技術研究センター、(公社) 全国市街地再開発協会、(公財) 都市計画協会、(独) 都市再生機構、(公財) 都市づくりパブリックデザインセンター、(一財) 都市みらい推進機構、(一財) 民間都市開発推進機構

表彰の対象

都市の課題を解決する先進的な取組を行っているまちづくり法人（まちづくりの推進を図る活動を行うことを目的とする会社、特定非営利活動法人、一般社団法人（公益社団法人含む）及び一般財団法人（公益財団法人含む））等

審査

応募資料をもとに、学識経験者等からなる審査委員会による審査を行った上で、選定いたします。審査においては、①先導性、②公益性、③多様性、④継続性、⑤効果の視点により評価を行います。

＜ 国土交通大臣賞 ＞

表彰対象者	所在地	活動概要
株式会社 街づくりまんぼう	宮城県 石巻市	マンガを活用したオリジナル商品開発や漫画館の運営等をビジネスとして成功させることにより安定的に事業収益を確保するとともに、その収益をまちづくり事業へ投資することにより、中心市街地において多様なイベントを開催するとともに、低未利用地を活用したチャレンジショップの企画運営、オープンスペースの利活用を展開するなど、まちなかの賑わい再生と地域の価値向上に大きく貢献しています。

＜ 審査委員長賞 ＞

表彰対象者	所在地	活動概要
多治見まちづくり 株式会社	岐阜県 多治見市	公共施設の指定管理による安定した収益をもとに、空きビルのリノベーションによる複合施設の開業などの空き不動産の活用や、イベント開催等による賑わいの創出に取り組むとともに、直営カフェの運営、レンタサイクルなどの観光関連事業を展開するなど、多様な事業に戦略的に取り組み、中心市街地の活性化に貢献しています。

※ 第10回まちづくり法人国土交通大臣表彰における詳細については、別途プレスリリースの【「第10回まちづくり法人国土交通大臣表彰」受賞者の決定】をご参照ください。

第3回 コンパクトなまちづくり大賞

1. コンパクトなまちづくり大賞について

コンパクトなまちづくり大賞は、改正都市再生特別措置法による立地適正化計画制度、これに併せた事業制度としての都市再生整備計画事業（旧まち交）を始めとするまちづくりのための各種事業を活用し、地域の創意工夫のもと、コンパクトなまちづくりを推進している、他のモデルとなるまちづくりの取組事例を表彰し、全国に紹介することを目的として実施するものです。

2. 主催・後援

主 催：コンパクトなまちづくり推進協議会、一般財団法人都市みらい推進機構

後 援：国土交通省

3. 実施方法

応募のあった市区町村の中から、受賞都市を選定する。

【総合戦略部門】

自らが掲げる「テーマ」に基づいた立地適正化計画及び関連計画を公表し、その「テーマ」に関連する取組を行っている市区町村

【個別事業部門】

まちづくりにかかる事業（都市再生整備計画事業、市街地整備事業等）のいずれかを完了し、一定の成果をあげている市区町村

【審査委員会】

第1回：令和3年 3月23日（火）

第2回：令和3年 5月 7日（金）

委員会メンバー：委員長	東京海洋大学名誉教授	高橋洋二（令和3年5月現在）
副委員長	日本大学特任教授	岸井隆幸（順不同、敬称略）
委員	東京工業大学教授	中井検裕
〃	和歌山大学教授	足立基浩
〃	東京理科大学教授	伊藤香織
〃	(株)建設環境研究所技術本部理事	伊藤伸一
〃	国土交通省大臣官房審議官(都市)	望月一範
〃	国土交通省大臣官房技術審議官(都市)	渡邊浩司
〃	国土交通省大臣官房審議官(住宅)	黒田昌義
〃	コンパクトなまちづくり推進協議会幹事長	白石浩人(松山市都市整備部長)
〃	(一財)都市みらい推進機構専務理事	有安 敬

4. 表 彰

【総合戦略部門】

①国土交通大臣賞（1点）特に優秀な取組

②コンパクトなまちづくり推進協議会会長賞（1点）優秀な取組

【個別事業部門】

①国土交通大臣賞（1点）特に優秀な取組

②都市みらい推進機構理事長賞（1点）優秀な取組

第3回 コンパクトなまちづくり大賞 受賞一覧

【総合戦略部門】

賞	都市名	概要、受賞理由
国土交通大臣賞	和歌山市 (和歌山県)	同市ではコンパクトシティへの転換に向け、市街化調整区域の開発許可基準の厳格化を図り無秩序な宅地の拡散を抑制するとともに、立地適正化計画により拠点の集約化を図っている。また、街なか再生に向け、小中学校の再編、公共施設の再編による公的不動産を活用した大学の誘致や都市再生推進法人等を活用した官民連携によるまちづくりを進め、さらに市街地再開発事業等で集客力の高い賑い拠点の整備を展開している。その結果、まちなかにおける人口や児童数は増加に転じ、まちなかの通行量や来訪者数が回復しつつある等、都市の課題解決に向け、様々なまちづくりを実践し、効果を発現している点が高く評価されました。
コンパクトなまちづくり推進協議会会長賞	熊本市 (熊本県)	同市では中心市街地と15の地域拠点を利便性の高い公共交通で結び、持続可能で誰もが移動しやすく暮らしやすい多核連携都市を都市構造の将来像として位置付けており、その実現にあたって立地適正化計画や地域公共交通網形成計画により、確保すべき機能、エリアの設定や基幹公共交通軸の強化等の公共交通ネットワークの充実を図っている。加えて、甚大な被害を出した平成28年4月の熊本地震の教訓を踏まえ、改正都市再生特措法にもとづく「防災指針」の検討を取り入れ、改定立地適正化計画を早期(令和3年3月)に公表したこと等、計画の更新が適切に進められている点が評価されました。

【個別事業部門】

賞	地区名・都市名	概要、受賞理由
国土交通大臣賞	草薙駅周辺地区 静岡市 (静岡県)	本地区は旧清水・静岡両市の市境部分に位置し、基盤整備により優良な住宅地と大学・美術館・図書館等が立地する文教地区となっている。駅南北の大規模民間開発を契機とし、都市再生整備計画事業により駅舎・南北自由通路・駅前広場等が整備され、安全な歩行空間が確保されるとともに、整備された公共空間の有効活用やまちの賑い・活力創出等を目指し、都市利便増進協定を活用した都市再生推進法人による大学生や地域を巻き込んだ賑わいづくりの活動が活発に展開していることが高く評価されました。
都市みらい推進機構理事長賞	小松中央地区 小松市 (石川県)	本地区は市の中心市街地に位置し「まちの顔」であったが、人口や商店数の減少により賑わいが失われつつあった。北陸新幹線整備に伴う連続立体交差事業を契機として、駅東西の土地区画整理事業を進め、併せて都市再生整備計画事業による駅前広場、観光交流センターの整備、都市機能立地支援事業により小松駅南ブロックに商業・子育て・大学・宿泊機能を有する複合施設を民間活力の活用で整備する等、複数の事業の組合せによる取組と、これを契機にNPO法人やボランティア団体の活動も活発となり賑わいが戻りつつある点が評価されました。

第3回 先進的まちづくり大賞

1. 先進的まちづくり大賞について

先進的まちづくり大賞は、他の地域のモデルとなるような「健康・医療・福祉」「エネルギー・環境・省エネ」「安心・安全」「防災・減災」「交通」「インフラ（上下水道等）」「コンパクトシティ」「既存ストック・歴史的資産の活用」「リノベーション」「公民連携・官民連携」「ファイナンス」「タウンマネジメント・エリアマネジメント」「ブランディング」等をキーワードに、都市課題の解決や次世代型都市の創出に繋がる『先端技術』や『新しいまちづくりの手法』を活用した先進的なまちづくりの取組を表彰し、国内外に広く情報共有、発信することにより、先進的なまちづくり事例の普及や取組の一層の促進支援を図ることを目的として実施するものです。

2. 主催・後援

主催：コンパクトなまちづくり推進協議会、(一財)都市みらい推進機構
後援：国土交通省

3. 実施方法

全国の市区町村等から応募のあった地区の中から、受賞地区を選定する。

【対象地区】

まちづくりにかかる取組・活動を実施し、一定の成果をあげている市区町村の取組、または、まちづくり団体等（企業、NPO、協議会等。）による取組。

【審査委員会】

第1回：令和3年3月23日(火)

第2回：令和3年5月7日(金)

委員会メンバー

委員長	東京海洋大学名誉教授	高橋洋二	(令和3年5月現在)
副委員長	日本大学特任教授	岸井隆幸	(順不同、敬称略)
委員	東京工業大学教授	中井検裕	
〃	和歌山大学教授	足立基浩	
〃	東京理科大学教授	伊藤香織	
〃	(株)建設環境研究所技術本部理事	伊藤伸一	
〃	国土交通省大臣官房審議官(都市)	望月一範	
〃	国土交通省大臣官房技術審議官(都市)	渡邊浩司	
〃	国土交通省大臣官房審議官(住宅)	黒田昌義	
〃	コンパクトなまちづくり推進協議会幹事長	白石浩人	(松山市都市整備部長)
〃	(一財)都市みらい推進機構専務理事	有安 敬	

4. 表彰

①国土交通大臣賞（1点）

特に優秀な地区

②都市みらい推進機構理事長賞（1点）

優れた地区 ※今回は該当なし。

5. 受賞一覧

賞	応募者・所在地	取組名／概要・受賞理由
国土交通大臣賞	長久手市 愛知県長久手市	<p>長湫（ながくて）南部地区土地区画整理事業を契機とした継続的なエリアマネジメント</p> <p>当地区は市の南部に位置し昭和60年度に地権者代表と市がまちの未来を考えるまちづくり勉強会を設置し、平成10～26年度の期間で土地区画整理事業を実施。事業の完了はまちづくりのゴールではなく、スタートであるとして平成21年4月より土地区画整理組合が主体となり、里山見回り（緑地等点検）、里山保全、ホタル飼育、生物保護等のエリアマネジメント活動を開始。事業完了により同組合が解散した後も活動を引き継いだ一般社団法人が中心となり、区域外の会員も加え、また行政による適切な関与もあり、30年の長きに渡って住民主体のまちづくりが継続していることが高く評価されました。</p>

第16回 住まいのまちなみコンクール

1. 住まいのまちなみコンクールについて

人口減少社会の中、まちの価値の落ちない、選ばれる地域づくりが求められています。「住まいのまちなみ」は、地域の方々が積極的に維持管理、運営することで、豊かな暮らしの場へと育まれていきます。また、高齢化や防災・防犯、低炭素化などの社会的課題に対応しながら、多世代がともにまちの価値を守り育て、住み継ぐことができるまちとしていくことが大切です。このためには、地域の管理や交流活動のほか、空家の利活用等による地域の活性化、新たな入居者の受け入れを含むコミュニティの形成など、多様な取り組みが必要となります。

このコンクールでは、地域の特性を活かし、魅力的な住まいのまちなみを育む維持管理、運営などの活動に実績を上げている住民組織をまちづくりのモデルとして表彰し、支援します。

2. 主催・後援

[主 催] まちづくり月間全国的行事実行委員会、(一財)住宅生産振興財団、
(一社)すまいづくりまちづくりセンター連合会

[後 援] 国土交通省、(独)住宅金融支援機構、(独)都市再生機構、
(一社)住宅生産団体連合会、(公社)日本建築士会連合会、
(一社)日本建築士事務所協会連合会、(一財)ハウジング・アクト・コミュニティ財団

3. 事業実施経緯

[応募期間] 令和2年5月1日～令和2年8月24日

[審 査] 第1回 令和2年9月23日
第2回 令和2年12月7日

[審査委員]

委員 長 大月 敏雄 (東京大学教授)
委 員 岡田 昭人 (まちづくりプランナー)
黒田 昌義 (国土交通省大臣官房審議官)
齊木 崇人 (神戸芸術工科大学学長)
坂井 文 (東京都市大学教授)
森 まゆみ (作家・編集者)
渡邊 浩司 (国土交通省大臣官房技術審議官)

(五十音順/敬称略)

[発 表] 令和3年1月

4. 審査結果

国土交通大臣賞・・・1団体

- 諏訪町自治会（神奈川県秦野市）

住まいのまちなみ賞・・・4団体

- NPO 法人今庄旅籠塾（福井県南条郡南越前町）
- クイーンズフォレスト流山おおたかの森管理組合（千葉県流山市）
- のぞみ野団地管理組合法人・のぞみ野自治会（兵庫県姫路市）
- 緑園都市コミュニティ協会（神奈川県横浜市）

国土交通大臣賞

諏訪町自治会（神奈川県秦野市）

小田急線秦野駅近傍のかつて農村集落だったところに、2012年に始まった土地区画整理事業でできたまちです。行政の協力で湧水を保存活用するための公園が整備され、車が通り抜けにくい道路ができました。この公園では、新旧住民と一緒に清掃を行うなど、交流が自然な形で行われます。カワセミの姿も楽しめ、自治会の有志では、秦野固有のホタルの復活を目指し、歴史文化的行事を伝える活動にも取り組まれています。このように、地主による区画整理事業組合、行政、開発業者、自治会の人々の密な連携で生み出した湧水公園と豊かな生物の営み、そしてそれを取り巻く曲がった道と住宅地が、新旧住民の交流を促進し、新たな住民活動の起爆剤となっています。



第 23 回まちづくり・都市デザイン競技

1. 趣 旨

これからのまちづくりにおいては、そこに生活し活動していることの豊かさが実感でき、誇りのもてる優れた景観を備えた環境整備が重要です。現代の活動にふさわしい新たな都市景観の形成には、まちの歴史や環境に配慮しながら、その都市固有の品格を備え洗練された表現と演出が求められ、そしてその魅力が都市に活力を呼び戻し、新たな賑わいを伴って、まち全体が活性化していくことが期待されます。こうしたまちづくりの課題を踏まえ、本「まちづくり・都市デザイン競技」は、地域にふさわしい整備構想とまちのデザインについての提案を広く一般から募り、まちづくりに対する国民の関心を高めるとともに、活力ある美しい景観を備えたまちづくりの実現に寄与することを目的に平成 10 年度より毎年実施しているものです。

2. 競技対象地区

競技の対象地区は、全国公募に応募された候補地の中から、岡山県岡山市の玄関口である JR 岡山駅から東へ約 900m の「旧城下町地区」（約 115ha）を選定しました。

3. 競技課題

岡山市が目指す「歩いて楽しいまちづくり」を実現するため、「JR 岡山駅周辺地区」の来街者を対象地区に誘導し、賑わい創出につなげていくためのコンセプト、移動手段、対象地区内での具体的なアイデアや、小学校跡地等の低未利用地に整備（活用を含む）すべき機能及びその具体的な整備手法等と、これらの低未利用地と公園等の公共施設や岡山後楽園・岡山城等の歴史・文化施設、表町商店街等の商業施設を効果的に連携させて、楽しく回遊するための具体的な整備内容や活用方法等のアイデアについて、10 年～20 年後を見据えた都市デザイン及び整備手法の提案を求めました。

4. 応募作品数

競技へのエントリーが 98 グループあり、最終的に提出された応募作品数は 71 作品でした。

5. 主催・後援

- (1) 主 催 : まちづくり月間全国的行事实行委員会
(公財) 都市づくりパブリックデザインセンター
- (2) 後 援 : 国土交通省、岡山市

6. 競技実施経緯

- (1) 応募登録期間 : 令和2年10月1日（木）～ 令和3年2月26日（金）
- (2) 作品提出期間 : 令和3年3月 9日（火）
- (3) 審 査 : 令和3年3月23日（火）

7. 審査委員

- 委員長 西村 幸夫（國學院大學新学部設置準備室長・教授、東京大学名誉教授）
委員 石川 幹子（中央大学研究開発機構教授、東京大学名誉教授）
岸井 隆幸（（公財）都市づくりパブリックデザインセンター理事長、日本大学特任教授）
高見 公雄（法政大学教授）
藤本 昌也（建築家、日本建築士会連合会名誉会長）
菊池 雅彦（国土交通省都市局市街地整備課課長）
大森 雅夫（岡山市長）

（順不同）

8. 審査結果

審査の結果、次の通り各賞が選定されました。

○国土交通大臣賞（1点）

- 小粥 慶子 [有限会社 小野寺康都市設計事務所]
渡部 美香 [株式会社 三菱地所設計 都市環境計画部]

○まちづくり月間全国的行事実行委員会会長賞（1点）

<該当作品なし>

審査委員会において、当該賞に該当する作品を選定した後に、作品提出者より、応募を取り下げたい旨の申出がありました。審査委員会として審議の結果、応募要領「15.失格」に該当する事由があることから、これを受理し、当該賞に該当する作品はなし、といたしました。

○（公財）都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞（1点）

- 前田 幸大/ 田中 亨/ 松本 識史/ 與猶 久恵/ 芥 慎太郎/ 山下 絢子/ 永田 湧也/ 仲松 孝洋
[株式会社 オオバ]

○奨励賞（2点）

- 河崎 篤史/ 植田 啓太/ 大貫 絵莉子
[東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻]

鬼塚 祐希/ 兼藤 聡也
[九州大学大学院人間環境学府都市共生デザイン専攻]

○岡山市長特別賞（1点）

- 金田 貴史/ 田中 陽朗/ 三好 花保/ 井上 龍輝/ 水谷 蒼 [株式会社 エイト日本技術開発]
牧野 英輝 [株式会社 二神建築事務所]

